



「防災と保健・福祉の連携による高島市における個別避難計画の作成について」

●話題提供者 高島市健康福祉部社会福祉課 主任 梅村 淳 さん

高島市の取組ビジョン

「誰一人取り残さない防災」と「地域共生社会」の実現

防災 × 保健・福祉・看護・医療等

地域（区・自治会、民生委員等）、保健・福祉専門職、市等あらゆる関係者の連携による計画作成

当事者・地域の安全安心+地域のつながりの再構築

2月のワーキンググループ会議は、高島市社会福祉課の梅村さんに「防災と保健・福祉の連携による高島市における個別避難計画の作成」について話題提供をしていただきました。

防災を切り口に地域共生社会の実現・地域のつながりの再構築までも目指されているのに驚かされました。この取組が県内で広まっていくよう、地域住民として、専門職として関わっていただければと思います。

【専門職の役割】当事者との信頼関係を活かし…

当事者（その家族）への取組説明、取組への同意、優先順位チェックリストの作成、各種会議での当事者の代弁・サポート等

【参加者の声】

- ・個別避難計画の作成が地域づくりにもなるということが目から鱗だった。
- ・地域のつながりづくり、地域をまきこむことが大事と感じた。
- ・自治会に入っている人が50%くらい、マンションもある地域であるが自分たちの地域でできるのだろうか。
- ・地域のつながりが希薄になっており、自治会に入っていない人の情報をどう入手したらよいのか。
- ・一人暮らしの方でそこまでしていただけないと思われる方もおられる。
- ・家のことを近所の人に知られたくない人もいてなかなか進まないこともあるのではないかと。
- ・リーダーシップをとれそうな地域の人はいくらいるのだろうか。
- ・難病患者的の個別避難計画は医療福祉サイドが作成しているが法改正で市の防災部局が入ることで動きやすくなる。ただ、個別避難計画まで作っていかうとすると、難病患者、独居高齢者、障がい者などで優先順位があつて思い通りにいかないこともある。支援の必要な人の垣根をなくしていくことも大事。
- ・高齢者だけでなく、障がい者についても色々な職種が理解し、連携していくことが必要。
- ・当事者が訓練に参加されているのが大事と感じた。
- ・訓練に足を運んでもらうために、おもしろそう・楽しそうと思えるようイベント化するとよいのではないかと。災害グッズプレゼントするとか。
- ・自分の福祉施設のBCPを作成しているが、自分の施設だけでなく利用者がどういったところに住んでいるのか知ることも大事と感じた。被災したときに専門職はすぐに駆け付けられないので、だれが助けに行ってくれるのか確認しておく必要がある。

個別避難計画の取組の意義

～「いつも」と「もしも」をつなげる取組～

- ・防災の取組をきっかけに平時からのお付き合いにつなげる
⇒取組の一連の流れ（住民研修会、地域調整会議、避難訓練等）を通じて当事者（その家族等）が地域とお近づきになる
- ・災害時、福祉専門職員は駆けつけられない（ことが想定される）
⇒地域の方々の支援が必要

障がい者や高齢者が地域から「特別扱い」されることなく「地域の一人・構成員」として認識していただくことを目指す

⇒地域共生社会・ソーシャルインクルージョン

この取り組みを自分たちの地域にどうフィットさせていくのが大事。高島方式は長い時間をかけて、当事者、福祉専門職、社協等様々な関係者と話をしながら作ってきた制度なので、他の地域ですぐに全部できるかというところではないと思う。その中でも防災という切り口はだれでも入っていける要素だと感じている。

家の中に入ってほしくない人もいるが、どうしたら入っていけるか専門職の方と考えながら計画作成まで1年、2年かかった方もおられた。粘り強くアプローチしていくことも大事である。皆さんの口からあなたが逃げないと地域の方が悲しい思いをされる、協力してほしいと伝えていく。また、地域の取組意識の醸成を並行して行っていくことも重要である。今後みんなでこの取り組みを進めていければと思う。



梅村 淳 さん

【次回ワーキンググループ会議】

日時：令和7年3月27日（木）

18:30～20:00

場所：滋賀県庁新館7階 大会議室（Web参加可）

テーマ：「今年度の地域創造会議振り返り

& 会員同士交流会」



医療福祉の地域創造会議 事務局

（滋賀県庁 医療福祉推進課内）

TEL 077-528-3529

FAX 077-528-4851

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s-higa.jp

